



# Asset Management Division

アセット・マネジメント部門

2018年3月期の振り返り

2018年3月期は、国内におけるETF(上場投資信託)を含む投資信託、投資顧問での残高拡大および海外でのUCITS<sup>※</sup>ファンドの販売拡大等を背景に約3.3兆円の資金流入があり、国内外を合わせた2018年3月末の運用資産残高は、過去最高水準の50兆円となりました。

通期の収益は1,273億円、税引前当期純利益は662億円となりました。運用資産残高の拡大を背景に運用報酬が増加し、また、アメリカン・センチュリー・インベストメンツ(ACI)関連損益も収益に貢献したことで、2002年3月期以降の最高益となりました。

※Undertakings for Collective Investment in Transferable Securities (UCITS)、欧州委員会指令に定義される譲渡可能証券の集団投資事業のことで、欧州連合における投資信託の統一基準

## 強み

世界にまたがる運用体制と質の高い運用調査能力

各投資家の多様なニーズに対応する運用ソリューションの提供力

業界を先取りする新たな取り組みへの挑戦を可能にする人材とノウハウ

## 課題

市場環境や投資家ニーズの変化に対応できる商品開発力の一層の強化

国内における投資家層の裾野拡大と海外ビジネスの更なる推進

資産運用ビジネスにおけるテクノロジーの活用による付加価値創造

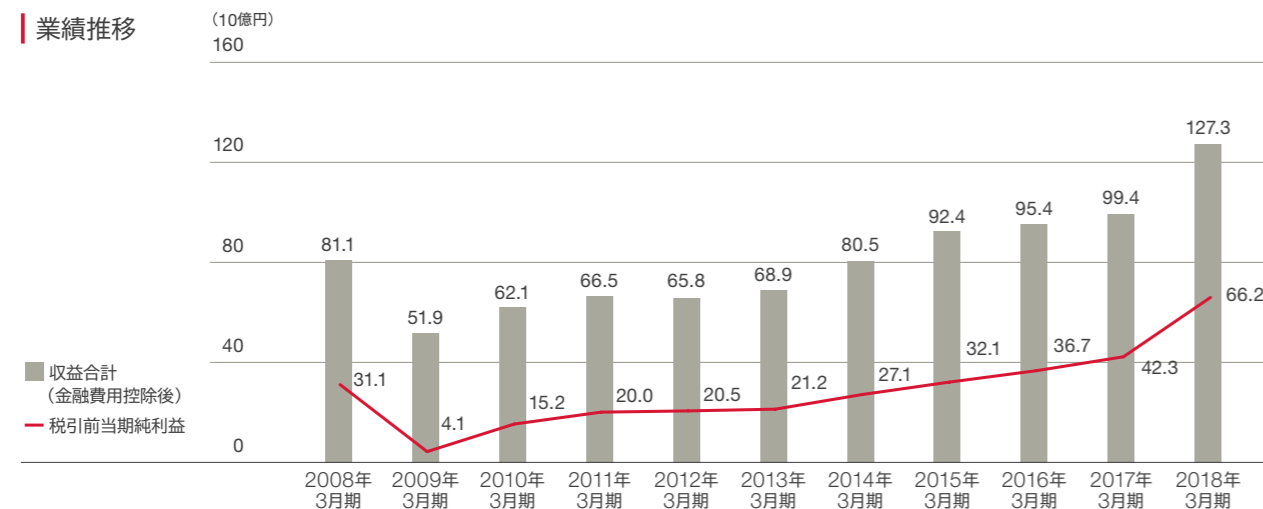
## 対応策

ACIとの協業、オルタナティブ運用戦略の強化

国内投資未経験者層に訴求する資産運用の提案、海外でのUCITSファンド群の拡充

資産運用ビジネスの強化に結び付く先端技術に関する研究開発の加速

## 業績推移



価値創造への取り組み

## 中期的な戦略

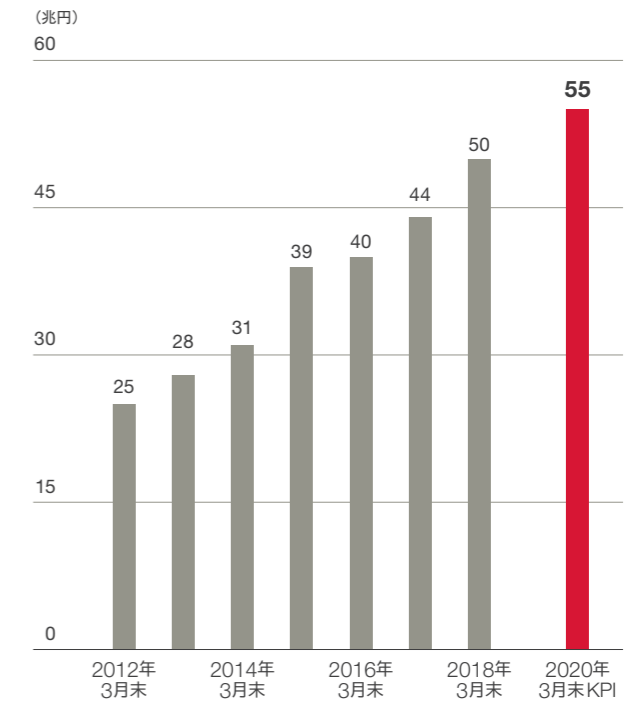
### マーケット環境と2020年に向けたKPI

資産運用業界は、世界的な富の拡大に加え、新興諸国における経済成長も相俟って、今後も堅調な市場拡大が見込まれます。その一方、お客様の資産運用ニーズの変化、投資コストに対する関心の高まり、およびテクノロジーの進展を背景とした他業種の参入等による競争激化が予想されます。

このような状況の下、アセット・マネジメント部門は2020年3月期のKPIとして掲げている、運用資産残高55兆円、税引前当期純利益500～550億円の目標達成に引き続き取り組んでいます。

具体的には、ACIとの協業やオルタナティブ運用戦略の強化、海外でのUCITSファンド群の拡充等、運用ソリューションの提供に取り組んでいます。また、投資未経験者層に訴求する資産運用の提案を通じて投資家層の裾野拡大を図るほか、資産運用ビジネスの強化に結び付く先端技術に関する研究開発も加速させています。

### 運用資産残高



- 投資コストに対する意識の高まりを背景とした、ETFやパッシブ運用需要が拡大
- 株式、債券といった伝統的な運用だけでなく、資産配分の分散化を図れるような、特徴ある運用商品やオルタナティブ投資に対する関心の高まり
- 人工知能(AI)やビッグデータ等のデジタル技術に代表されるテクノロジーの急速な進化

### 資産運用業界を取り巻く環境

### アセット・マネジメント部門の取り組み

- 質の高い運用調査能力に基づいた最良のパフォーマンスの提供
- 運用と営業の一体化による顧客ニーズに沿った運用ソリューションの提供
- 自社の運用商品に加え、複数の外部委託先の運用商品も活用した、オルタナティブ投資のニーズへの対応

- ETFの商品ラインアップを拡充
- iDeCoやつみたてNISA等に商品供給
- 投資未経験者層への資産運用の訴求



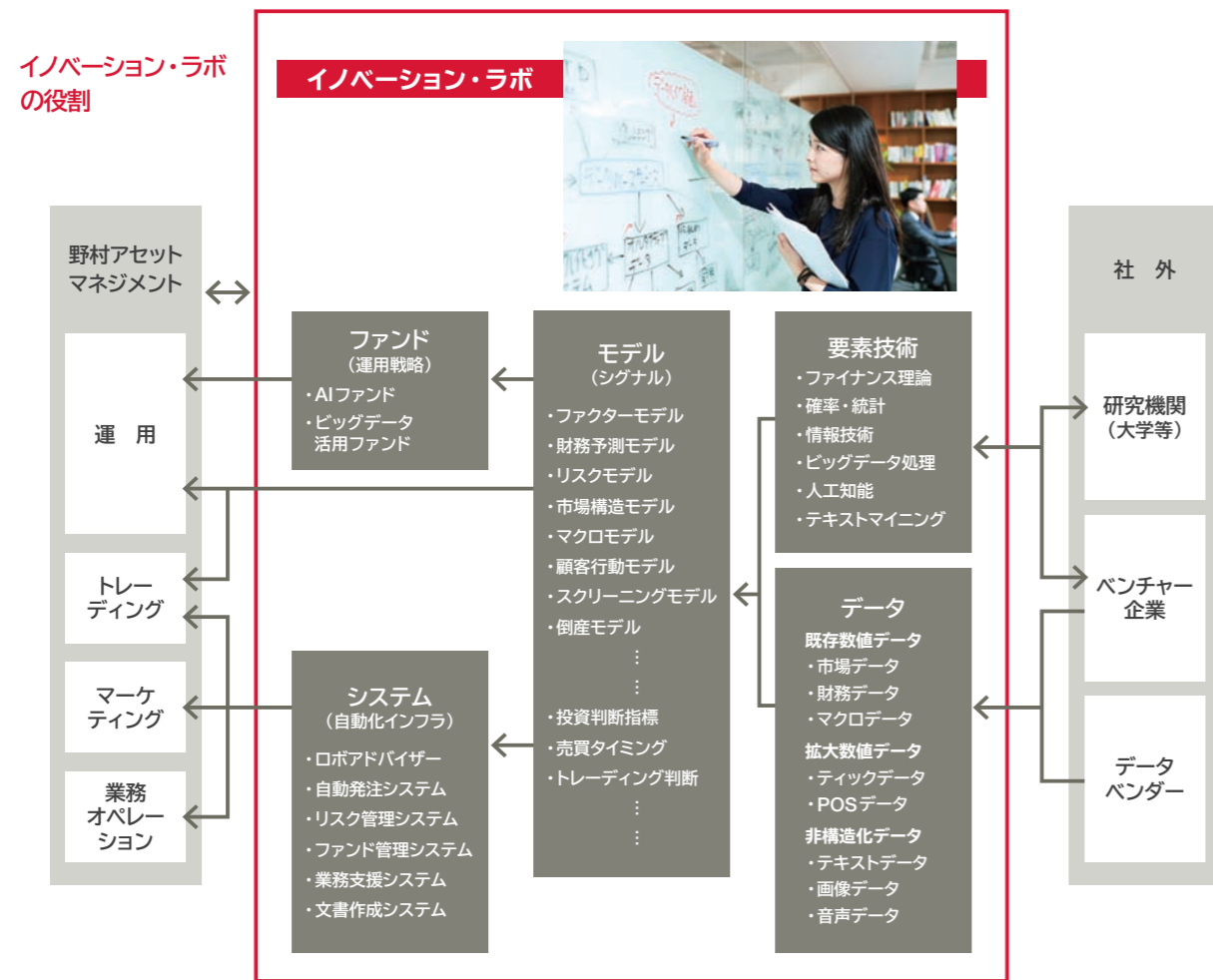
- ACIとの協業による商品提供力の向上
- UCITSファンドの残高拡大
- 海外の機関投資家への提案力強化

## デジタル技術の活用

人工知能（AI）やビッグデータ等のデジタル技術に代表されるテクノロジーの急速な進化は、資産運用業界においても、競争力を左右する大きな要因になりつつあります。またテクノロジーの活用には、運用力の強化にとどまらず、業務効率化による生産性向上や新たなビジネスチャンス創造につながる大きな原動力となることが期待されています。

当部門では、テクノロジーに精通した専門性の高い人材を主体に、資産運用先端技術研究室「イノベーション・

ラボ」を創設し、先端技術の活用による資産運用ビジネスでの競争力の強化に取り組んでいます。2017年度には、AIを用いてアナリストレポート等を解析し、資産運用業務における投資判断精度の向上や効率化を図る取り組みを開始した他、新たな運用戦略の開発やオペレーションの自動化を含む効率化技術の開発にも取り組んでいます。また、将来を見据えた技術基盤の構築に向け、大学をはじめとする研究機関、フィンテック企業等との連携も進めています。



また業界を問わず、モバイル・アプリを用いた非対面型のビジネスが拡大する中、当部門においても拡大が期待されるロボ・アドバイザー・サービス等への展開を進めています。当部門が持つ運用力と商品開発力に、モバイル・アプリ等の技術とノウハウを融合させ、これまで資産

運用になじみのなかった投資家層に対しても資産運用の魅力を訴求するビジネス基盤の構築に取り組んでいます。これらのような、進化するテクノロジーを活用した取り組みを今後も継続し、資産運用ビジネスにおける新たな付加価値の創造を目指しています。

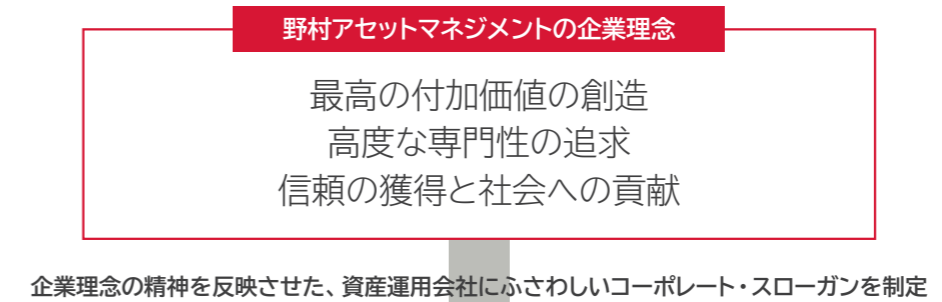
## 資産運用を通じた社会への貢献

当部門は、「最高の付加価値の創造」、「高度な専門性の追求」、「信頼の獲得と社会への貢献」を柱とする野村アセットマネジメントの企業理念に基づき、資産運用を通じて社会の発展に貢献します。投資信託を提供する運用会社として、多様化するお客様のニーズや各々のライフステージに合った運用商品やサービスを、対面、非対面を問わずさまざまな手段を通じて提案しています。

また、国内外の機関投資家に対しても、競争力のある運用商品を提供することはもとより、投資先企業との建設的な対話や議決権の行使等のスチュワードシップ活動を通じて、投資家の資産形成への貢献と、企業の持続的な成長を両立する、投資の好循環の実現を目指しています。

加えてテクノロジーの進化に伴う資産運用ビジネスにおける構造変革の可能性も見据え、運用戦略や商品の高度化だけでなく、お客様に対するサービス水準の高度化にも注力しています。

こういった新たな挑戦を踏まえ当部門では、企業理念で掲げる精神を反映させた、資産運用会社に相応しいコーポレート・スローガン、「Expertise to Exceed」を作成しました。時代を先駆ける専門性と先見性を力に、卓越したパフォーマンスとソリューションを追求することで、お客様の期待を超えることを目指す思いを表現しています。当部門としては、このスローガンが掲げる精神の下、今後の変化を着実に捉え、柔軟な発想にてお客様の期待を超える活動に取り組んでいます。



# Expertise to Exceed<sup>1)</sup>

Using our expertise and foresight to stay ahead of change, we pursue exceptional performance and create cutting-edge solutions to exceed all expectations.

時代を先駆ける専門性と先見性を力に。  
卓越したパフォーマンスとソリューションを追求することで、  
期待のさらにその先へ。